



射水市立大門小学校 学校だより



三輪の結

大門っ子

第16号

令和6年12月20日

優しい目・介助犬との触れ合い活動！

11月21日(木)、学校公開日に3年生が特別活動として、「介助犬と触れ合い授業」を行いました。当日は、日本介助犬協会から後藤さん、山口さんの2名と実際に介助犬と暮らしていた石川県に住む平野さんご夫婦、介助犬を育成している親子、JAから3名、射水市社会協議会2名の方々にお越しいただきました。



始めに後藤さんから人の手助けをする犬は「盲導犬」

「聴導犬」「介助犬」の3種類がいて、「介助犬」は日本には59頭いると聞きました。



ただ「介助犬」が必要な障害者の方が1万5千人もおられ、全然足りないそうです。そこで全国を回ってPR活動を行っているのだと説明がありました。当日は、ピトとブルーナの2頭のPR犬が来てくれました。

早速デモンストレーションをしてくれました。車椅子の山口さんが鍵を落とし「テイク」と言うとピトが取りに行きました。そして「ギブ」の言葉で鍵を渡し

ます。見事な動作でした。鍵だけではなく小さな10円玉も拾い上げ、子供たちから驚きの声が上がりました。また、車に乗っていて、駐車場の発券機に手が届かないとき、介助犬がチケットをくわえて渡してくれたり、口でくわえて靴下を脱がしてくれたり、冷蔵庫からペットボトルまで取り出してくれたりしました。極め付けは、ついたての後ろに隠したスマートフォンを探し出し、届けてくれました。どうして分かるのか、それはスマートフォンの形を覚えているからだそうです。

そして、3人の子供たちが代表して、ピトと鍵拾いに挑戦しました。1人ずつ車椅子に乗って、鍵を落とします。それをピトが拾います。「テイク」「ギブ」が上手に言い、3人とも見事に課題を達成しました。会場から大きな拍手が沸き起こりました。最後に平野さんから、

「町で介助犬を見ても『おいで』とか言ってほしくないのです。なぜなら車椅子ごと引っ張られて、倒れてしまうからです。心の中で『可愛い』とか言ってほしい」というお願いがありました。たいへん大事なことだと思います。

介助犬との触れ合い体験で子供たち一人一人の心の中にボランティアの精神が芽生えたのではないかと感じました。



子供たちの絵画作品展

学校公開日には、子供たちの図画工作の作品も教室の廊下やランチルームで公開しました。当日は子供たちが一生懸命制作した絵画や立体工作を、多数の保護者の皆様にご覧いただき、本当にありがとうございました。子供たちの励みとなりました。



夢のトラック展示!



わたしたちの夢のトラック「こんなトラックがあつたらいいな」小学生絵画コンクールで最優秀賞に選ばれた6年 奥 唯華さんの作品がトラックの側面に描かれて学校にやってきました。巨大な作品を見た子供たちは圧倒されていました。



浅井太鼓の6年生の卒業コンサート!



12月4日(水)、浅井太鼓大門キッズのファイナル「卒業コンサート」が開催されました。当日は、これまで子供たちを支えてくださった保護者の皆様を招待したところ、忙しい中、たくさんの方々にご来校いただきました。本当にありがとうございました。また、体育館にはたくさんの子供たちが6年生最後の雄姿を見ようと詰めかけました。

「千年太鼓」「浅井太鼓」「大門雄飛太鼓」の3つの曲を力強く演奏する姿に大きな拍手が沸き起こりました。6年生の姿を見て、1～5年生は、この素晴らしい大門の伝統を引き継ごうと思ったことでしょう。6年生の皆さん2年間本当にお疲れ様でした。



心があったか! ぽかぽか文化集会



11月20日(水)に、図書委員会と思いやり委員会共催による「ぽかぽか文化集会」を行いました。ねらいは、①図書室利用のマナー意識の向上と②思いやりの心を育むでした。始めに全校合唱の後、図書委員会が「図書室での気になる劇」と題して、「図書室では大声を出しません、走りません」などの寸劇を披露しました。次に、思いやり委員会が「倒れた人がいたら、どんな声をかけますか?」などの3択クイズを行いました。



子供たちは大きな声で笑ったり、答えたりして、体育館中が温かい雰囲気に包まれたよい集会となりました。

(校長 阿尾 昌 樹)